

びわ湖疏水建設の歴史的背景と意義

舟橋 智加良（社会人コース）

1、はじめに

琵琶湖疏水の建設は、従来、運河による水運の整備、さらに発電や用水による京都の近代化という観点から論じられることが多かった。しかし、琵琶湖疏水という名からも示されているように、その水源は琵琶湖であり、琵琶湖から外部に出る水路としては瀬田川につぐ第二の流出路でもあり、疏水の建設は滋賀県にとっても重要な意味をもつ事業であったはずである。

筆者は、疏水建設の事業を、京都の側からだけではなく、滋賀県の側から見たらどうなるのか、疏水建設により滋賀県側にはどのような影響があったのか、滋賀県と京都府の間に建設をめぐる何か矛盾はなかったのか、現在の琵琶湖淀川水系の中で疏水はどのような役割を果たしているのかなどについて興味をもった。

そこで疏水建設の歴史的背景を、とくに滋賀県側の事情を考慮しながら考察し、その意義を明らかにしたいと考えた。

2、研究の方法

琵琶湖疏水の建設に関しては多くの資料があり、これまでに京都・滋賀両地方の地方史誌類にも原資料をもとに研究され、建設の経緯が詳細に記述されている。筆者は、これらの既往の研究を閲読するとともに、重要な部分については原資料も参照するようにした。とくに当時の滋賀県の県庁、議会などの資料には注目した。また疏水建設にかかわる記念館、またさまざまな記念碑や、関係者の像など、現地に残されている関連遺産を訪ね、資料を閲覧したり、写真を撮影したりするなどにも努めるようにした。

3、研究レポートの内容

1) 疏水建設に対する滋賀と京都の攻防

疏水建設に対して、滋賀県は反対の立場をとっている。籠手田県令は、京都府より提案された「疏水計画」の内容を検討したが、水を供給する滋賀県のメリットがないばかりか、有害であるとの判定を下した。びわ湖が工事によって様々な弊害が起こることを懸念したのである。一方、京都府は復興事業の基礎となる疏水事業は何としても成功させたいとの思いがある。この攻防を追ってみたい。

2) 疏水建設における問題点

計画から認可を得るまで4年の歳月がかかっている。この意味するところは、この建設工事は成功するのかとの疑問である。お雇い外国人を現地に派遣して意見を聴取するも、日本の技術力では難しい。また完成しても費用対効果が期待できないとの回答である。何度か見直しの結果、当初予算60万円から最終予算は125万円まで膨らんだ。成功の確証を得ぬまま、国はなぜ認可したのか。

3) 疏水事業の評価

びわ湖疏水事業の評価として、北垣知事が、「起工趣意書」で説明した目的について検証してみたい。具体的には、①製造機械 ②運輸 ③田畑灌漑 ④精米水車 ⑤防火用水 ⑥井泉 ⑦衛生の7項目を挙げている。現代でも通用する壮大な内容である。